

## 2022年 5月 浜松聖書集会のご案内

( 時間 : 午前10～12時 )

- 5月 1日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会 : 大手 美千代  
聖書講話 : マルコによる福音書 12章1～12節  
「ぶどう園と農夫のたとえ—現代に問いかけるもの」 水戸 潔
- 5月 8日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会 : 溝口 春江 感話 : 大屋 智代  
聖書講話 : ルカによる福音書24章1～12節  
「イエス復活の意味と現実」 榎本 潤
- 5月22日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会 : 武井 めぐみ 感話 : 伊藤 純子  
聖書講話 : ヨハネによる福音書 15章18～27節  
「悪しき時代をどう生きるか」 (2001年9月2日) 溝口 正
- 5月29日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会 : 生江 扶左子  
聖書講話 : イザヤ書 59章  
「主の手が短くて救えないのではない 救いを妨げる罪」 武井 陽一

.....通 信.....

- 「みぎわ62号」原稿投稿の案内は、5月初めにお送りします。  
今年も紙上のエクレシヤの場として、「みぎわ」が用いられますように願っています。

### この世の不幸に悩む友へ

溝口 正

人間は思いがけぬときに、この世の不幸に襲われ、言い知れぬ悲嘆にくれることがある。しかし、この世の不幸を口実に、神から離れ去るならば、本当の不幸に転落するであろう。反対に、この世の不幸を契機として、いっそう神に近づきキリストに依り頼むならば、本当の幸福を手にすることができるであろう。余裕をもって不幸に耐え、乗り切る力が与えられるであろう。 『復活』321号 1993年6月

### 罪人なるを百も承知で

溝口 正

「愛なる神が余の犯せしすべての悪をわすれたまいて、ただ余のなせし些少(さしょう)の善をのみ記憶したもうを  
発見して、驚愕(きょうがく)の念に堪えざるべし」 内村鑑三の言葉 (『一日一生』6月11日)

罪深い私の心は、この言葉によって心休まる思いに満される。我ら人間にとって、もし神が審判のみの恐ろしい方であるならば、我らに救いはなく、たちどころに滅されるであろう。神は、我らが滅亡に値する人間であることを百も承知で、悪を忘れて少しばかりの善を記憶したもうのである。御子キリストを地上に遣わし、十字架につけたまいしは、その具体的証明である。罪深い我らの救われる道は、ここに開かれた。キリストは罪人をゆるすために来り給うた。神の愛のいかに深いかを知って「神の驚愕の念にたえざるべし」である。

『復活』321号 1993年6月